



会員数 30人

北九州プロバスケットボールクラブ月報

つながり

No. 193

令和4年7月号

2022. 7. 19

断捨離第3弾開始

会長 植田佐世子

再び数字を上げてきたコロナ禍、ワクチンしか身を守る術はないものでしょうか。そんな毎日、つけっ放しのテレビ、読みかけの本、料理をするのも面倒だけど外で食べるのも...そんな自分に気付きました。そしてなんと魅力的なキャッチフレーズの通信販売番組の多いこと。健康食品、宝石、各地の名産品、総菜何でもあれです。「これで痩せる?」「これ持ってる~」「美味しそう!」と暇をつぶしている内はよいけれど、衣替えの時記憶にない洋服を発見する等、レッドカードです。断捨離第3弾を開始することになりました。

卓話 「アフガニスタンの復興に命を懸けた中村哲医師」

元西南女学院高等学校校長、ペシャワール会会員 内山賢次氏



中村哲氏は古賀市で育った。西南学院中学時代にキリスト教と出会い、「直接世のため人のために役立つ仕事をしたい」とおもいたち医学部進学を目指し県立福岡高校から九州大学医学部へ進学した。国内の病院勤務を経て、1984年から中村氏の海外での活動が始まる。

国際医療 NGO の医師としてパキスタンのペシャワール・ミッション病院ハンセン病棟に赴任した。その前年の 1983 年 9 月に中村氏の医療活動を支援する目的で、大学医学部の仲間、高校の同窓生や香住ヶ丘教会の人たちによって「ペシャワール会」が結成された。

ペシャワールに来て最初に向き合ったのは、当時、蔓延していたハンセン病であった。裸足で過ごすことの多い現地の人にとって、ハンセン病によって足裏が感覚麻痺になると、小さな傷でも重症化していた。ハンセン病の治療と予防のために、足を保護するサンダル作りを始めた。病院の中に工房を作り、現地の職人を雇って大量にサンダルを作ったという。

1986 年から、アフガニスタンからの難民診療を本格的に開始する。1991 年にはダラエヌール渓谷に診療所を開設した。2000 年夏、1970 年代からの干ばつはアフガニスタン全土で一挙に深刻化し、水不足で子どもの栄養失調が急増した。清潔な水の確保が急がれ、井戸掘りを開始した。中村氏自らが井戸の中に降りて水が出るまで掘り続けた。また日本から井戸掘りの専門家を多数雇った。ペシャワール会も募金活動で支援金を集め、1600 本もの井戸が完成した。

2001 年アメリカは同時多発テロの首謀者が潜伏するとして、アフガニスタンを攻撃。戦況は泥沼化し、干ばつは一層激しくなっていた。地下水の枯渇を恐れたアフガニスタン政府は井戸掘りを禁止。2002 年、大胆な方針転換を余儀なくされた中村氏は、アフガニスタンの東部を流れるクナル川を活用する用水路建設に目をつけた。最初はスコップと人の手で掘った。帰国のたびに土木の本を買ってあさり、独学で勉強。そんな時、朝倉を流れる筑後川にある「山田堰」と出会った。山田堰は江戸時代に築かれた取水堰で、アフガニスタンは石の文化である。針金を編んだ籠に石を詰め川底に敷く“蛇籠工法”を用いることで、壊れた時は現地で修復できる工法にこだわった。建設開始から 7 年の 2008 年、13 キロの予定だった用水路は 25 キロまで伸びた。両岸に柳を植え、根を張り巡らせることで水路をより強固なものにした。約 1 万 6 千 ha が緑化され、約 65 万人の自給自足が可能になった。

アフガニスタンに小さな平和が訪れていた 2019 年 12 月、中村氏は移動中に銃撃を受け、帰らぬ人となった。中村氏の遺志を継いで、現在もペシャワール会によってダラエヌール診療所、農業事業、灌漑事業、訓練所での PMS 方式取水術の普及活動に職員一同尽力中であるとのこと。中村医師の慈愛に溢れた人柄と、どんな困難にも立ち向かう強固な意志に心打をたれました。(藤原)

6 月例会報告

指導役欠席のため、ストレッチ運動はなし。誕生会は住会員と近藤弘子会員で、住会員は入会間もなくの謝辞に少し緊張していたかも。でも立派に挨拶、全員から誕生日の歌の祝福を受けた。

卓話は「アフガニスタンの復興に命を懸けた中村哲医師」のタイトルで、中村医師と永年付き合っ
てこられたペシャワール会会員の内山賢次さんが、「なぜ、アフガンに行くようになったのか」「どんな
ことをしたのか」など、上部にスライドを示しながら説明、治安の悪い場所での命がけの奉仕活動、そ
して、自らも銃弾に倒れるという壮絶な人生を聞くことができた。最後は時間を気にしながらの卓話
で「まだ、しゃべり足りないことがあります・・」と、キチンと 1 時間で終わられたのが、聞く方にとつ
ても残念だった。

意見交換会での提言を、具体化するための委員会の統廃合では、7 月総会時に希望委員会を記
入してもらい、総会終了後に臨時役員会を開いて、各委員会への割り振りを決めることが報告され
た。また、ホームページも更新する予定で、同好会活動などを動画でも紹介したいので、会員への
協力を呼び掛けた。

ショートスピーチは谷口会員が登壇、趣味の短歌や万葉集の世界を分かりやすく説明、谷口会員
は川柳の会でも活躍しているが、そのセンスの良さを背景を見た思いだった(安高)

企画委員会 6 月 6 日 5 名出席

久しぶりに委員 5 名全員の参加を得て
リーセントホテルでの会議でした。主題で
ある卓話について、選定講師の卓話内容に
ついての事前説明や要望などを話しあっ
た。このメンバーでの会議は来月の 1 回で
終了するが、10 月までの講師予定を決め
て新委員会に引き継ぐということになっ
た。(大石)

親睦委員会 6 月 14 日 14 名出席

湖月堂で 18 時から開催。先ず古賀副会長が
「意見交換会の集約・処理」のレジュメに沿
って説明、7 月の総会終了時まで第 1 希望、
第 2 希望を提出するとの説明でした。

議題は暑気払いの演目についてですか、グ
ループに分けて、カラオケを面白い趣向でや
ってはという意見や炭坑節の復活、フラダン
スの方に来てもらう等色々な意見が出まし
た。詳細は 7 月の委員会で決定します。久々
の夜の開催でお酒も入り、話もはずみました。
(柴村)

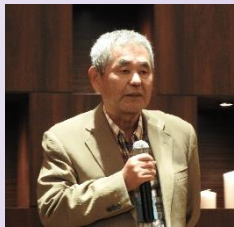
広報委員会 7 月 1 日 7 名出席

ホテルテトラ北九州で 12 時 30 分から
開催した。先ずはランチで態勢を整え一息
入れて会議に入った。

「つながり 7 月号」の原稿執筆者、写真担
当者の確認して、8 月号の担当者も決定。
活発化してきた同好会活動、トピックス情
報、暖気流への投稿等も呼びかけるよう話
し合った。「Link23 号」については、随想原
稿、作品等の提出を全会員から回答頂いた
ことを報告した。「Link23 号」各ページの執筆
担当者を決め依頼することとした。顔といえる
表紙写真は全員一致で「戸畑祇園山笠」に
決定し、安堵の空気が広がる中、各人猛暑
の街へと散会した。(内藤)

活性化委員会 6 月 23 日 9 名出席

今後、若い人材を招き入れるための環境づ
くりについて、会員より活発な意見が出され
た。ホームページについては、より多くの人
に検索してもらうため、掲載内容の更新、他
のホームページとのリンク、卓話講師の名を
掲載する等具体的な案も出た。さらに外部へ
の積極的な対応として、行政・メディアとの
タイアップによるプロバスの活動のアピー
ルや、イベントへの参加等、当クラブを知っ
てもらう努力をすること等が話し合われた。
(近藤哲)



万葉の世界に浸る

谷口保徳会員

No.58



「10 年前から趣味で短歌を詠んでいます。今日は万葉集のお話を…」と始まり、高校の古典でストップしている筆者にとって別世界でした。

万葉集は全 20 巻、天皇から貴族、防人までの和歌約 4,500 首が納められ、内 2,200 首余が詠み人知らず。大伴家持の作が 450 首あるため、彼が完成させたとされる所以です。令和の元号の基となったのが、天平 2 年(730 年)大宰府の師(長官)であった大伴旅人邸で催された「梅花の宴」で詠まれた 32 首の序文「初春の令月にして、気淑く風和ぎ…」であったことは、なぜかうれしく感じました。さらに昔は門司～飛幡にはきれいな砂浜が続いていて、小倉の長浜を「豊国の企救の長浜行き暮らし日の暮れ行けば妹をしぞ思ふ」と詠んでいる歌があります。

最後の歌は大伴家持が詠んだ「新しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重け吉事」と、正月の歌です。選ばれた基準は解りませんが、短歌をする者として万葉集を読み返すのも良いかと思うと括られました。万葉の人々の趣きある心に触れた思いがしました。(植田)

6 月のお誕生おめでとうございます(敬称略)

住 百合絵(4 日) 近藤 弘子(14 日)



♡同好会活動報告♠

ワインを楽しむ会 🍷🍷

6 月 26 日(日) 18 時から、総勢 12 人の参加で第 132 回を開催した。今回は、大石会員が友人 2 人を同伴され、久々に外来の方を加えて賑やかで和やかな雰囲気が出始め、会話も弾んだ会となった。コロナ禍により、開催の中止が余儀なくされた中で、2020 年 12 月の 128 回から講師山下会員の都合でリモート開催としたが、画面が小さい、個々人からの発言が多く収拾が取れない等の意見があった。



今回初めて Face Time で、しかも iPad を使用して行ったが、当日の失敗は許されないため、2 日前の夜、講師と私が手探りでお試しをして成功に持ち込んだ。画面がやや大きく、声も明瞭であり参加者に好評であった。今回、白ワイン 1 種、赤ワイン 2 種で、何れもニュージーランド産、料理は何時ものことながら、ワインにピッタリであるが、特に前菜「お肉のパテ、レバームース添え」は美味であった。(古賀靖子)



「失礼します」よりは
「さようなら」にしません！
内藤康子会員 No61

コロナ禍に猛暑とウクライナ情勢と、私たちの周りにはギスギスした慌ただしい時間が流れている。そんな中で互いに交わすあいさつは、日々を穏やかで好ましものにしてくれる。

10 数年前 1 戸建からマンションへ移り住んだ。まだ日の浅い頃、真新しいランドセルを背負った小学生とエレベーターに乗り合わせ、その彼が「失礼します」と言って降りて行った。私は「えー、うそー」「そんな」と思った。別れのあいさつは「さようなら」じゃないの……。

それから、気を付けていると、大人も子どもも皆「失礼します」である。「お先に失礼します」が省略されたのだろうか？ ある時、エレベーターで小学生と二人きりになった。彼が降りる時「さようなら」と声を掛けみた。なんと「さようなら」と返って来たではないか！ これから子どもたちには「さようなら」と声を掛けて行こうと思っている。

さ行とあ母音からなる「さようなら」の優しい響きが私は好きだ。たくさん「さようなら」を使っていこう。上手く受け取ってもらえるかどうか少し不安ではあるが、これからも爽やかで、温かな言葉を大切にしたい暮らしを続けていきたいと思っている。

♡同好会報告♠ 川柳の会

プロバスクラブ 23 名の公式ラインに、時々川柳が送信されて来ていました。そのユニークな内容に心癒され川柳の仲間が増えてきました。

そこで、古賀副会長の発案で、令和 4 年 5 月 17 日川柳の会を立ち上げました。

デジタル化が進む中でライン上での川柳交換は楽しく、思いついた時間にすぐ送信できるスピード感と気楽さが最高です。

“今でしょスマホタッチで川柳会” 会員は関いたらすぐに送信できるラインでのコミュニケーションを楽しんでいます。（古賀えみ子）

♡同好会報告♠ 歌をうたう会

6 月 15 日 15 時から西小倉市民センターで「歌をうたう会」発足です。講師の植田佐世子先生と 9 名の会員の参加です。まず「声を出すこととは」という話から始まり、実際に発声してみると身体の使い方一つで、声の出方が全く変わることを実感しました。「荒城の月」と「赤とんぼ」を、丁寧に曲想を考えながら歌った後は、ちょっとした達成感も味わえて嬉しかったです。勿論、初めの一步を踏み出したばかり、先生には気長に根気よくご指導をいただきたいと思っています。これからもみんなで声を合わせて歌うことを楽しんでいきたいと思います。私たちと一緒に歌いましょう。楽しく実力アップ♪入会お待ちしております。（近藤弘子）

ありがとう BOX メッセージ6月分(五十音順、敬称略)

★6月例会も無事出席できました。(遠藤)★耳の役割も老いて相応に。補聴器かな？(大川)★ウィズコロナで活動も活発化してきました。でもまだまだ万全な注意を。(古賀靖)★熱中症に気をつけましょう。(近藤哲)★苦手な夏がやって来ましたが元気に乗り切りたいと思います。(柴村)★今日はお誕生日、ありがとうございます。(住)★皆で仲良く、活発な活動で会を盛り上げましょう。(住吉)★3 か月ぶりに例会参加が出来ました。(竹原)★卓話の中村先生のお話ありがとうございました。(橋本)★感謝(松永)

★(眞鍋)★マスクはずしたい(安高)★1 年の早いこと今日は夏至です。元気ですか。(吉田信)★非課税なのに補助金をもらいました。(吉田秀)

収支報告	5月末残高	125,640 円
	6月分収入(例会)	7,500 円
	6月末残高	133,140 円